

浦 和 区 自 治 会 連 合 会

令和元年度 会長講習会 報告書

- 1 日時 令和元年6月18日（火） 午前10時から11時30分まで
- 2 場所 市民会館うらわ 503・505室
- 3 出席者
藤枝会長・高橋副会長・石井副会長 他会長51名で計54名の出席であった。
- 4 会長講習会の概要
 - (1) 司会の石井桂太郎副会長が開会を宣言した。
 - (2) 会長あいさつ
藤枝陽子会長から本日の講習会への出席のお礼と挨拶があった。
 - (3) 前地自治会会長及び浦和区防災アドバイザー協会会長の佐々木弘会長より本日の講習会の内容について説明があり、講座は2部構成で1部は浦和区における災害の状況、2部は避難所運営の問題点について講習を行うとのことであった。
 - (4) 1部 浦和区における災害の状況
 - ・始めに、佐々木会長が阪神淡路大震災時の神戸の火災映像を流し、説明を行った。
 - ・本題に入り、浦和区に想定される最大の災害状況について説明があった。地震発災による火災により、死者が多数出るほか、避難者は総人口の1/3に達するとのことである。また、建物の全壊も総建物数の1/2に達するとのことである。
 - ・火災が発生すると、過半の地域が危険であり逃げまどいの恐れ等があり、火災から避難できない人が多数出るとのことである。また、関東大震災時に発生した火災旋風の恐怖についての説明があった。
 - ・防災都市づくり推進地区は延焼、避難困難地区が市全体で19ヶ所あり、また浦和区では9ヶ所ある。この地区には事前の減災として、感震ブレーカー設置の補助金制度があるが、推進地区以外でも火災で延焼してしまうので、浦和区は面的に手当てしないと効果がない。そこで、感震ブレーカー設置補助を拡充していくことを市長に陳情することが今年度の課題である。
 - ・危険ブロック塀対策として、今年度よりブロック塀改善工事費助成が実現した。ただ、申請が複雑で難しい、面倒であること等の課題があるので改善の必要がある。
 - (5) 2部 避難場運営の問題点
 - ・2部の講師は小沢さんに交代し、避難所の問題点の説明を行った。
 - ・避難所は災害時において住民の生命の安全を確保するための必要な場所として重要な役割を果たす場所である。
 - ・まず、避難所運営で重要なことは、避難者を受け入れるときのトリアージ（選別）である。

避難者をトリアージの区分1～5に分け、それぞれを体育館以外の場所に避難させることが必要である。(例として総務班が担当する。)

- ・その他、情報班、救護班、食料班、物資班、環境班の役割についての説明があった。
最後はみんなで！頑張ること！

(6) 質問コーナー

- ・上小崎8丁目自治会の加藤会長から、大原中の避難所運営委員会が機能していない。避難所の人的確保が必要であることから、自主防災会以外に避難所運営のための組織を作ったらどうかとの質問があった。

佐々木会長より、自主防以外の組織を作ることは難しい。前地自治会は自主防役員を2分割し、半分は避難所、半分は地元に残ることを決めている。

- ・本太1丁目自治会の芹澤会長より、消防分団はいざ災害が発生したとき地元には来られない可能性があるので、消火栓の訓練が必要と消防分団から言われたとの質問があった。
小沢さんより、消防分団が地元で救助等できないこともあるので、自治会で消火栓の使い方等を地元で訓練する必要があるとのことであった。

(7) 閉会

高橋副会長が閉会の宣言をした。

令和元年6月24日 浦和区自治会連合会 会長 藤枝陽子